



毎日、寒い日が続きます。皆さん、体調はいかがですか。三年生の皆さんは卒業式も目前ですね。三年生の皆さんにとってはこれが最後の図書だよりになります。三年間で何冊の本を読むことができたでしょうか。また、心に残る一冊に出会うことができたでしょうか。今後も読書習慣を忘れず、たくさんのお名作に触れ、豊かな人生を送ってほしいと願っています。少し早いですが、卒業おめでとうございます。

●新着図書のお知らせ

『宇宙飛行士はどんな夢をみるか？』(立花正一)

宇宙飛行士を健康管理面などでサポートする専門医や宇宙医学研究者らを著者に迎え、あこがれの宇宙飛行士たちの「現実」を紹介。国際宇宙ステーション(ISS)では、どんな服装で、何を食べ、どのように眠るのか? 厳格な体力維持や健康管理の方法、宇宙船での日常とは? 近い将来、実現するであろう、月や火星への有人惑星探査を視野に、人類の未来について考える一冊。



『図説エジプトの「死者の書」』(村治笙子、片岸直美)

死者が来世で永遠に生きられるように書かれた呪文「死者の書」。来世を信じていたエジプト人が、死者が死後も神々に守られ、永遠に生き、自分達を見守ってくれるようにとの願いを込めて死者の遺体の近くに置いた。美しく彩られた「物語」を収めた世界初の「死者の書」ヴィジュアル版入門書。



『コンビニ人間』(村田沙耶香)

36歳未婚女性、古倉恵子。大学卒業後も就職せず、コンビニのバイトは18年目。これまで彼氏なし。日々食べるのはコンビニ食、夢の中でもコンビニのレジを打ち、清潔なコンビニの風景と「いらっしゃいませ!」の掛け声が、毎日の安らかな眠りをもたらしてくれる。「普通」とは何か? 現代の実存を軽やかに問う衝撃作。第155回芥川賞受賞作品。



●生徒の感想文より

『有頂天家族』(森見登見彦)

この本は、狸、人間、天狗のうごめく現代の京都が舞台です。よくある「狸が人間を化かす」、「天狗が自由自在に空を飛ぶ」という設定ではありますが、狸は鍋になってしまう人間を時に恐れ、飛べなくなった天狗は狭いアパートで威張りちらし…と面白い要素がたくさんあります。私が特に気に入っている場面は、〈偽叡山電車〉の話です。この場面に出てくる「面白きことは良き事なり!」という台詞も気に入っています。ぜひ場面を想像しながら読んでみて下さい。



おすすめ評価★★★★★ (2年 男子)

*「有頂天家族」は英真生にとっても人気のある本です。図書室では1、2巻置いています。興味のある人はぜひ借りにきて下さい。

●寄贈図書のお知らせ

『危険なビーナス』(東野圭吾)

弟が失踪した。彼の妻・楓は、明るくしたたかで魅力的な女性だった。楓は夫の失踪の原因を探るため、資産家である弟の家族に近づく。弟の失踪とその一族をめぐるミステリー。



『月の上の観覧車』(荻原浩)

守れるはずもないことを、いくつ約束したのだろう。逃げ出した故郷、家族に押しつけた身勝手な夢。いつだってその残酷さに、気付かぬわけでは決してなかった一。繰り返せない時間の哀歓を描く著者最高の傑作短篇集。

『悟浄出立』(万城目学)

中国古典に材を取り、さらにその「脇役」の人生に注目した、ユニークな作品集。

